

OpenCV 導入について

OpenCV を使ったアプリケーション開発を「Windows 環境」かつ「Visual Studio」で行うための主な環境構築方法は以下の 3 つがある。

- 公式パッケージを使ったインストール
- CMake を使ったライブラリのビルド
- NuGet を使ったパッケージインストール

今回は公式パッケージを使ったインストールについて説明する。

<http://sourceforge.net/projects/opencvlibrary/files/opencv-win/2.4.10/>

上記のサイトから opencv-2.4.10.exe をダウンロードし、opencv-2.4.10.exe ファイルを実行する。

図 1 のウィンドウが表示されるので、[...] ボタンを押して展開先のディレクトリを指定した後、[Extract] ボタンを押す。なお以降は、「C:¥」を展開先にしたものとして説明を行う。この例では [Extract] ボタンを押すと、「C:¥opencv」に OpenCV のファイルが配置される。

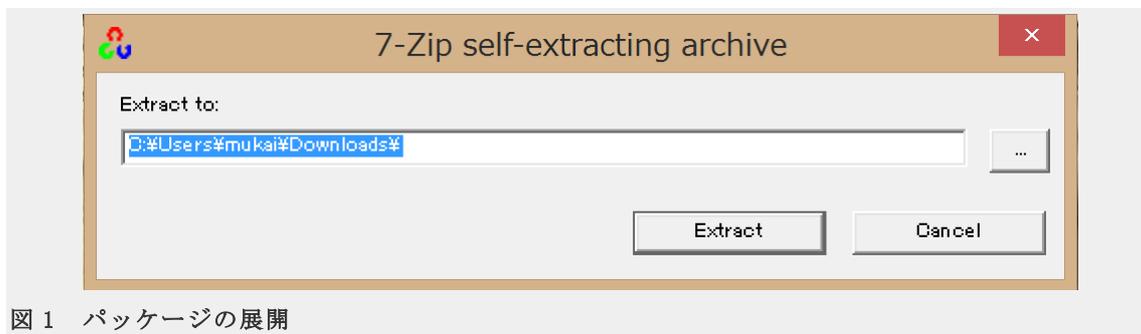


図 1 パッケージの展開

生成された「opencv」ディレクトリを（後でバージョンが区別できるように）「opencv-2.4.10」にリネームする。

ここまでで OpenCV インストールは完了。

配置した OpenCV のライブラリ（DLL）をプログラムから参照できるように Windows の環境変数へパスを追加する必要がある。



図 2 [コントロールパネル] - [システムとセキュリティ] - [システム] の [システムの詳細設定] をクリック



図 3 [システムのプロパティ] ダイアログの「環境変数」ボタンを押す

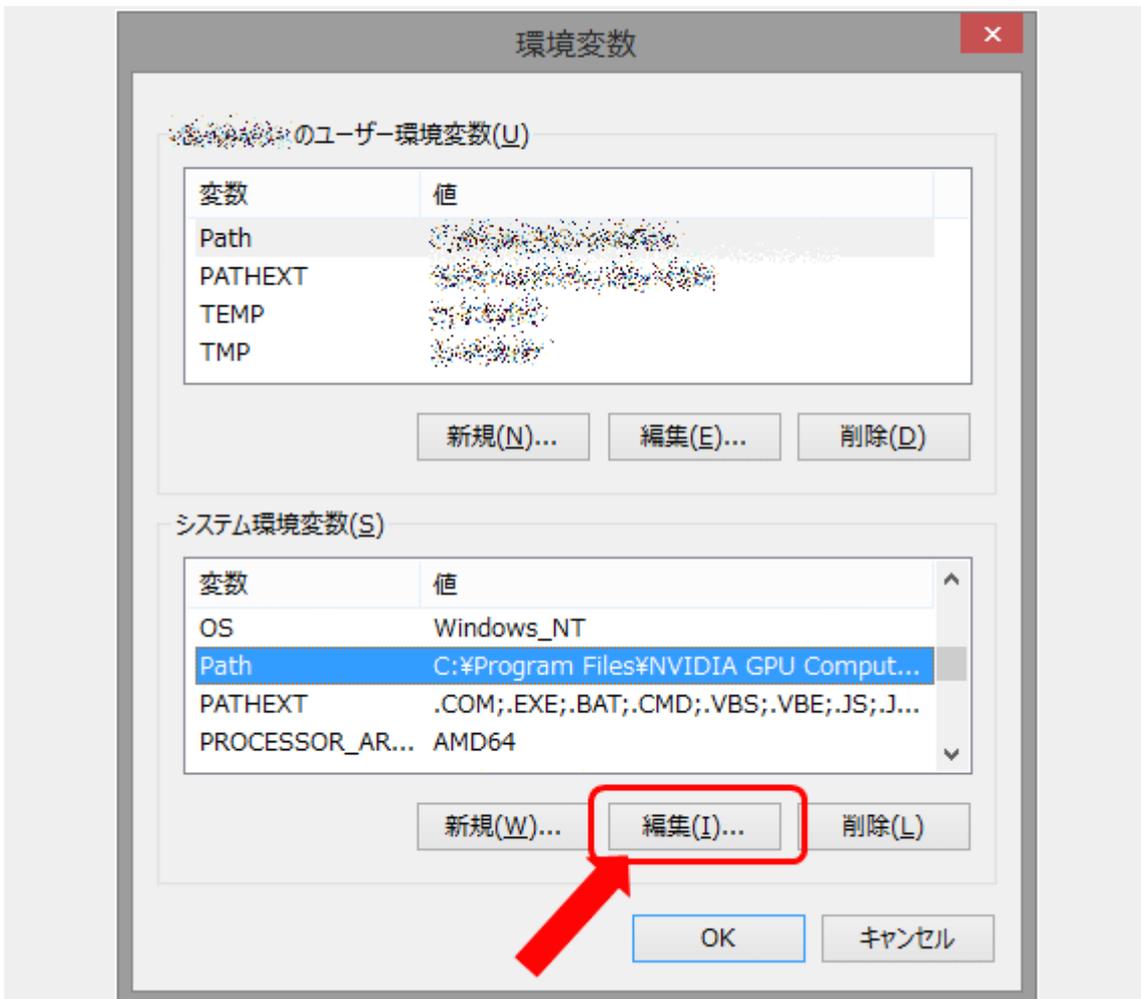


図4 「環境変数」ダイアログの「システム環境変数」一覧から「Path」を選択して、「編集」ボタンを押す

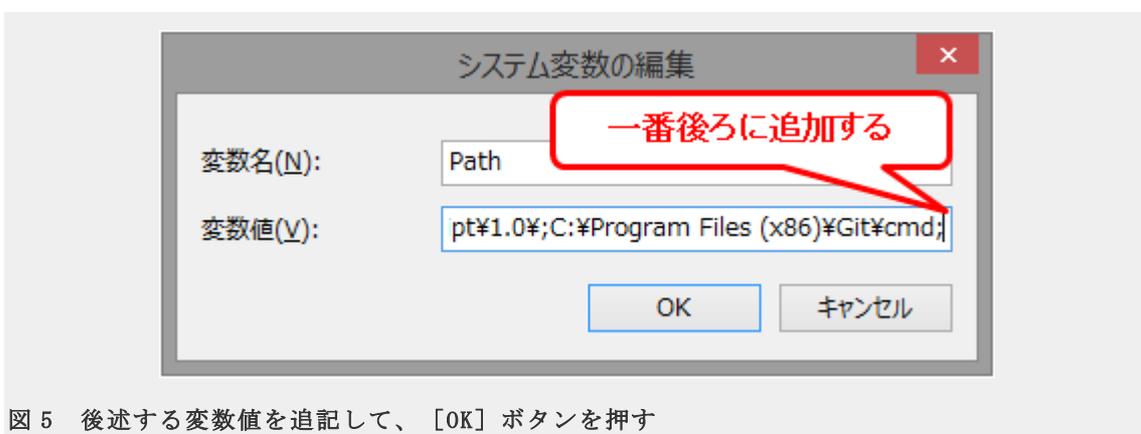


図5 後述する変数値を追記して、「OK」ボタンを押す

下記の変数値を一番後ろに追記して、[OK] ボタンを押すと、環境変数の設定は完了である。設定中に Visual Studio を立ち上げていた場合は、一度終了させて再度立ち上げると、環境変数の設定が反映される。

変数名	変数値
Path	;C:¥opencv-2.4.10¥build¥x86¥vc10¥bin

追記する変数値

また、上記の変数値は Visual Studio 2012、x64 ビルドの場合の例だが、OpenCV のパッケージには Visual Studio 2010/2012/2013 のバージョンごとに、32bit/64bit のライブラリが同梱されているため、以下の図を参考にして、適切な変数値に置き換える。

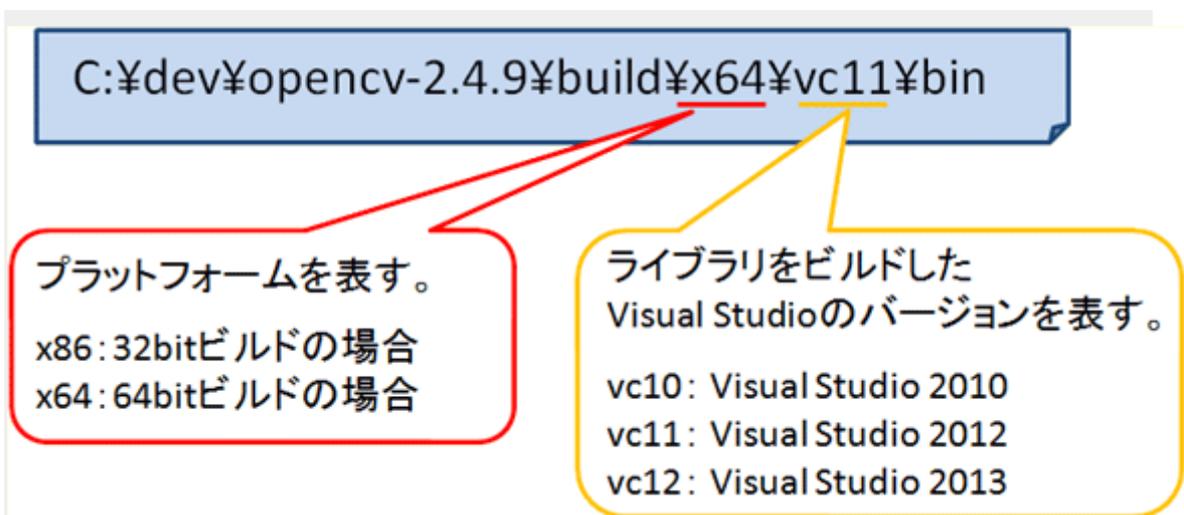


図 6 変数値の意味

ここまでで公式パッケージを使った環境構築は完了である。